

体の動きを高める運動領域部会（部内授業）

1 体の動きを高める運動領域における研究主題について捉え

【研究主題】

自ら学び続ける力を仲間と共に身に付ける体育学習

～運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して～

◎ 体の動きを高める運動領域における「自ら学び続ける力」が働いている姿

- ・子供から自分の体力に応じた課題を見いだしている。
 - ・他者に目を向けて比較し、新たな課題を見いだしている。
 - ・客観的に自分を見て振り返り、課題を見いだしている。
 - ・学びの中で、トライ&エラーを繰り返しながら、見いだした目標に向けて学び続けることができていく。
- 子供自身が課題を見だし、自らの取組を他者と比較しながら振り返り、新たな課題を見いだしていることができる。

上記の波線部にあるような姿を体の動きを高める運動領域ならではの、
「自己の体力に応じた課題をもち、学んだことを授業以外でも生かすことができるようになることを目指す」
を意識した授業づくりを行っていく。

2 部内授業・実証授業を通して明らかにしたいこと

(1) 子供にとってより価値のある共有タイムの在り方

子供一人一人が学習課題を見いだす力や解決する力が異なり、自分なりの目標に向けて学習を進めていくことが特性の学習である。自ら学び続ける力を身に付けていくために、仲間の存在は不可欠である。自らの学びを深めていくために、他者の気付きを子供にとって必要感がもてる内容を共有していく。そのために、個・小集団・全体と価値付けていきたい内容を整理し・共有し、価値付けることで、自ら学び続ける力につなげていく。

(2) 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことができるような運動の設定

本部会では、子供が学習課題を見だし、学習課題の解決に向けた取り組みを充実させるために、運動の設定の視点を以下のように整理し、令和5年度には、「学び合い」が促すように仲間と共に行えるような動きを設定した。本年度は、サブテーマにある「運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうこと」ができることを重点に置き、運動を設定していく。

(3) 自ら学び続ける力を高め、仲間と共に学ぶことのできる ICT 機器の利活用

体の動きを高めるために、自身の動きを撮影し、動きの変容に気付いたり、ICT 機器を活用し他振り返りを仲間と共有したりすることで、自ら学び続ける力を高めていく。(2学期の実証授業)

3 学習指導案

(1) 実証授業実施校等

大田区立大森第四小学校

第6学年1組 児童：27名 指導者：主任教諭 藤井 智崇

(2) 単元名 体づくり運動「体の動きを高める運動」

(3) 単元の目標

知識及び運動	ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動きを高めるための運動をすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ①体の動きを高める運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②体の各部位の可動範囲を広げる体の動きを高めることができる。 ③人やものの動き、または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができる。 ④自己の体重を利用したり、人や物などの抵抗に対してそれを動かしたりすることによって、力強い動きを高めることができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ①動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し、自己や仲間の課題を見付けている。 ②自己の体力に応じて取り組む動きを選んだり、動きに工夫を加えたりしている。 ③観察し合っで見付けたポイントや分かったこと、解決の仕方や改善方法について伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ①体の動きを高める運動に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの動きを観察し合ったり、教え合ったりするなど、仲間と助け合おうとしている。 ③学習に必要な物や用具の準備などで、役割を果たそうとしている。 ④分かったことを伝え合ったり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。

(5) 子供の実態

本学級の子供達は各教科の学習においては、とても素直に教師や仲間の考えを受け取る気持ちが強。しかし、入学した時から新型コロナウイルスの影響で十分な運動経験を積み上げてきておら

ず全体的に運動の楽しさを感じたり、協働的に学びを高めたりした経験がほとんどない。第4学年までの「多様な動きを作る運動（遊び）」は体ほぐしの運動を中心に行ったこともあり、5年生の体の動きを高める運動においても体の動きの高まりなどを意識して学習を行った経験が乏しい学級である。

この単元を通して、体の動きを高める運動の「学習の仕方」を理解させ、子供一人一人の体の動きを高めることへの必要感に応じて仲間と協働し課題解決していくような「学び合う姿」を身に付けていけるようにしていきたい。

(6) 研究主題を実現するための手立ての工夫

① 学習過程の工夫

本部会の目指す子供の姿となるように、第5・6学年の全20時間を5時間ずつの第Ⅰ期～第Ⅳ期に分けた。具体的に段階を分け、指導計画を作成した。部内授業では、第五学年の第Ⅰ期の「学び方を学ぶ」の学習過程を、第4学年までの多様な動きをつくる運動（遊び）との接続や、体の動きを高める運動の特性を生かし、以下のように整理した。第1時、第2時は運動との出会いや、子供に応じた学習課題を見いだせるような時間としている。第3時以降は、体の動きの高め方について、学び合いを通して学べるようにしていく。

第五学年		第六学年	
第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅳ期
学び方を学ぶ	第Ⅰ期の学び方を生かす	5年生の学びを生かす	簡単な計画を立てる

↓

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
運動との出会い 問いをもつ	問いから学習 課題を見いだす	動きのポイントを意識しながら高める		
		動きを工夫しながら高める		

② 共有タイムの柔軟な運用

令和5年度には、体の動きを高める運動の学習を進めていくために教師によって価値付けたい内容について、1単位時間の運動前半と運動後半の間に全体の場で学び合う時間として「共有タイム」を設定した。共有タイムを設定することで、子供の学び方の定着や仲間同士の協働的な学びにつなげることができた。

その一方で、運動の特性として、子供一人一人が異なる学習課題に応じて動きに取り組んでいるため、子供の必要感に応じた内容を共有しきれなかった。

今年度は、共有タイムの在り方を柔軟に運用していく。子供の学びに応じた内容を小集団、学級全体で共有することで、「自ら学び続ける力」が身に付き自立した学習者につながると考えた。また、子供たちの学習状況を教師が見取り、共有タイムを1単位時間の前半、中盤と柔軟に設定することで子供の必要感を高めることができると考えた。体の動きを高める運動の特性を生かした学習を進められるように、個→小集団→全体→個…と一人一人の学びを教師が見取り、価値付けていく。

【学びの形態に応じた子供同士で共有していきたい内容】

個の学び	小集団の学び	全体の学び
<ul style="list-style-type: none"> ・問いをもつ。 ・学習課題を見いだす。 ・動きのこつに気付く。 ・工夫した動きを気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の動きのこつ・ポイントを知る。 ・他者の工夫した動きを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を意識して取り組むこと。 ・ポイントを意識して取り組むことでより体の動きを高められること。 ・動きを工夫して取り組むと体の動きを高められること。

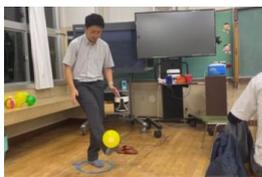
③ 運動の楽しさや課題解決の喜びを味わえる運動の設定

本部会では、子供が学習課題を見だし、学習課題の解決に向けた取り組みを充実させるために、運動の設定の視点を以下のように整理し、令和5年度には、「学び合い」を促すように仲間と共に行えるような動きを設定した。本年度は、サブテーマにある「運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうこと」ができることを重点に置き、運動を設定していく。

令和5年度までの運動開発の視点	令和6年度の運動開発の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・工夫の善し悪しが分かりやすい ・高まる動きが明確である ・運動の楽しさを味わうことができる ・高まりの実感がしやすい ・「学び合い」を促すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさを感じやすい ・課題解決の喜びを味わいやすい ・自らの学習課題を見だしやすい ・仲間と協働して課題解決に向かえる。

部内授業では、「運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうこと」ができることを重点に置き、運動を設定した。

風船けまり（巧・力の入れ加減）



ケンステップ内に立ち、風船を足の力の入れ加減を調整しながら三回蹴り上げる。

ペットボトルバンブー（巧・リズムカル）

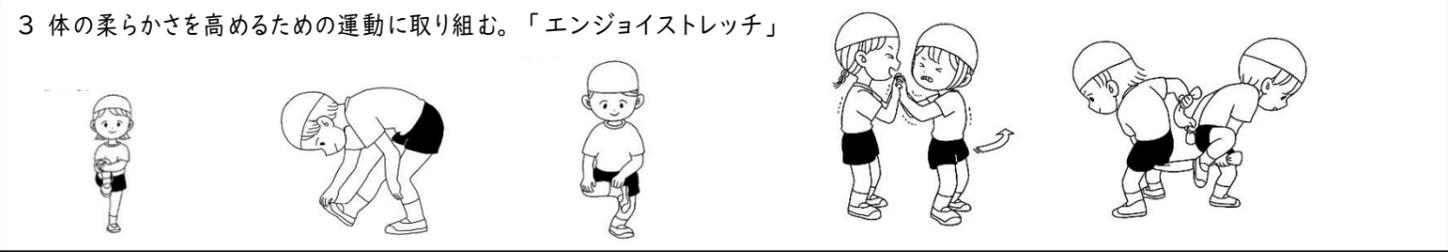
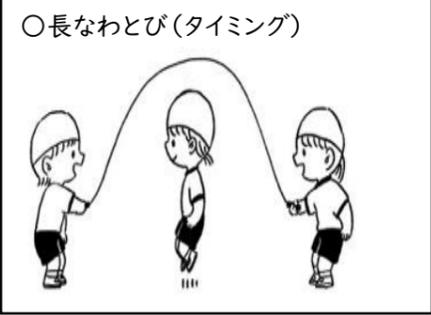
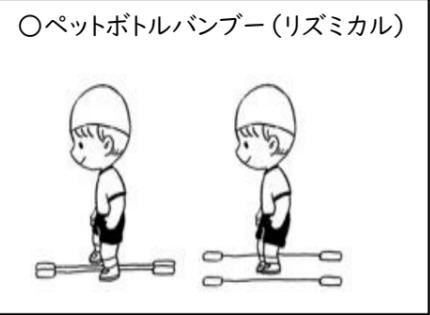


ペットボトルに結びつけられたゴム紐を、リズムカルにステップしながら跳ぶ。

④ 仲間の学びを共有することのできるICTの利活用

自ら学び続けるためには仲間の存在は不可欠である。部内授業では、デジタル振り返りカードを使用し、子供のふりかえりやそれに対する教師の助言等を共有できるようにする。

(7) 学習過程・学習内容

		第 I 期		
時間	1	2	3・4・5 (本時)	
段階	問いをもち、学習課題を見いだす。		「体の動きを高める運動」の学び方を知り、課題を解決する。	
学習過程	運動との出会い 問いをもつ	問いから学習課題を見いだす	ポイントを意識ながら高める。 動きを工夫しながら高める。	
学習活動	1 集合、整列、挨拶を行う			
	2 これまでの学習経験を振り返る。 3 体の動きを高める運動のプロモーションムービーを観る。 4 準備運動を行う。	2 前時にもった問いを共有する。 3 準備運動を行う。 4 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」	2 準備運動を行う。 3 体の柔らかさを高めるための運動に取り組む。「エンジョイストレッチ」 	
	5 巧みな動きを高めるための運動に取り組む。(2つまで選択して取り組む。) ※共有タイムについては、教師が子供の学習状況を見取り、柔軟に設定する。	4 自分の学習課題、学びのロードマップを確認する。		
	○長なわとび(タイミング) 	○ペットボトルバンパー(リズムカル) 	○スラックレール(バランス) 	○ボールドリブル(力の入れ加減) 
6 運動を通して考えたり、感じたりした問いをもつ。 7 片付け・整理運動を行う。 8 振り返りを行う。	6 片付け・整理運動を行う。			
	7 振り返りを行う。	7 振り返りを行い、次時に取り組む運動を選択する。 ※第 5 時には、6 時以降の見通しをもつとともに、目標の設定をする。		
教師のかかわり	「やってみてどうだった?(実感)」 ⇒子どもの「やってみたい。」「楽しそう。」という思いを大切に。実感したことを問いとして、価値付けていく。	「何を高めたいの?何が高まったと思う?(高まり)」 ⇒体の動きを高める運動は目的をもって運動に取り組んでいくことが大切であることを意識付ける。	「どうしたらできたの?(ポイント)」⇒ポイント意識をもって運動することの大切さを確認する。 「どんな工夫をすると高められるかな?(工夫)」 ⇒動きを工夫する視点を示しながら体の動きを高める方法を確認していく。 「さらに高めるためにどんなことが必要かな?(活用)」 ⇒さらに、体の動きを高めていくために必要なことについて確認していく。	

(8) 本時の学習 (5/10)

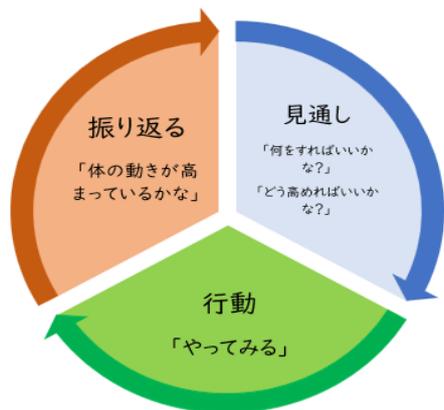
① 本時のねらい

学習課題を解決するために、自己の体力に応じて体の柔らかさや巧みな動きを高める運動に取り組むことができるようにする。

② 本時の展開

学習活動	○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援	□評価
<p>1 集合・整列・挨拶</p> <p>2 準備運動を行う。</p> <p>3 体の柔らかさを高める運動に取り組む。 ○エンジョイストレッチ</p> <p>4 自分の学習課題やロードマップを確認する。</p> <p>5 巧みな動きを高める運動に取り組む。 (下記から1つ以上選択) ○スラックレール (バランス) ○風船けまり (力の入れ加減) ○バンブーステップ (リズムカル) ○長なわ (タイミング) ※前・後半で合わせて運動を3つまで選択。 ※教師が適宜、共有タイムを取り、学び方の確認を行う。</p>	<p>○教師のかかわり ◎配慮の必要な子供への支援</p> <p>○部位を意識させるよう声をかける。</p> <p>○動きの高まりが実感できるように、運動を行う前と後に現状を知る活動(計測)を取り入れる。</p> <p>○全体を円に形に広げ、一斉に運動に取り組み、互いの動きを見合えるようにする。</p> <p>○児童の学習カードから「問い」「学習課題」共有したい内容を取り上げる。</p> <p>○自分の学習課題を同じ運動の場の仲間に伝え、学び合いにつなげるようにする。</p> <p>○動きの工夫、ポイントについて、個別指導カードを活用しながら確認する。</p> <p>○子供の思考を促すことを意識し、ねらいに迫れるように言葉掛けをしたり、共有タイムを取ったりする。</p> <p>◎高まりの実感がなかなか伴わないようであれば、動画を撮影することや、仲間との対話を薦める。</p>	<p>□評価</p> <p>□自分の体の状態や体力に応じて、運動を選んだり行い方を工夫したりしている。 (ワークシート、運動・発言)</p> <p>□動きのこつやポイントや動きの工夫について仲間に言葉や動作で伝えている。 (運動・発言)</p>
<p>【運動に取り組んでいるときの共有タイムの例】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「やってみてどう？」</p> <p>「友達に教えてもらってバランスが高まりました」</p> <p>「友達と関わったことで気付かなかったことを気付けたね。」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「やってみてどう？」</p> <p>「…」「よく分かりません」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「何が高まったか考えながらやっごらん」</p> <p>「何が高まるか友達と相談してごらん」</p> <p>「自分の動きをタブレットで見てごらん」</p> </div> </div>		
<p>6 整理運動・片付け</p> <p>7 振り返りを行う。</p>	<p>○各部位を意識して運動するように声をかける。</p> <p>○気付いたポイントや仲間との関わりを意図的に取り上げるようにする。</p> <p>○課題解決の進捗状況を聞き、次回の見通しをもたせられるようにする。</p>	

体の動きを高める部会が考える研究主題における学びのサイクル



「体の動きを高める運動」の学習を進めていく中では単元の中で、「次時や数時間分の運動内容や取り組み方を計画する場面」については、PDCAサイクルが活用されている。1単位時間内では、AARサイクルを活用している場面が多くあり、また、授業をまたぐ場面では、PDCAサイクルを活用する場面がある運動であると考えられる。